

令和6年度国際理解ワークショップ タイトル・要旨一覧

大学名	新潟国際情報大学			敬和学園大学
タイトル	Be Real. ～お互いを尊重できる未来へ～	どうして周りを気にするんだろう？ ～それって思い込み？～	え！それ食べるの！？ ～世界の珍味に「いただきます！」～	給食は誰かにとっての希望
要旨	人と違うってダメなことなのか。なぜ私たちは異質なものを受け入れられないのだろうか。人の目を気にするのはなぜなのか。 本ワークショップでは、私たちの身のまわりで起こっている「無意識の決めつけ」に焦点を置き、参加者に一人ひとりの個性を尊重できるきっかけをつかんでほしい。	周りの目を恐れて、言いたいことを言えなかった経験はないだろうか？自分にはできないと思い込み、無意識に自分の言動の幅を狭めているかもしれない。 本ワークショップでは、対話を不可能にしてしまう「無意識の思い込み」が自分にもたらす影響を体感し、自分の本心と向き合い、表現する方法を学びたい。そして、思い込みにとらわれず、自分の可能性を広げるきっかけをつかんでほしい。	あなたはカブトムシを食べられますか？自分たちが普段食べないような食材を見たら戸惑う人もいるでしょう。そのような場面で、文化的背景を理解せずに自分と異なる文化を排除したら相手はどう思うでしょうか。 本ワークショップでは、食を通して一人ひとりが受け入れがたいものとどう共存していくかを参加者と共に考えたいです。	給食を有難いと思った経験はありますか？食べることを当たり前に感じている人も、中にはいるかもしれません。実は給食には、想像したことの無いような強い思いが込められています。「食」は世界中の人々にとって明日を生きる力の源であり、希望です。 このワークショップでは、給食の意味と豊かさを皆さんと一緒に考えます。
主な対象	中学生、高校生	小学5年生以上	-	小学生・中学生
関連SDGS	10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公正をすべての人に」	16「平和と公正をすべての人に」	4「質の高い教育をみんなに」、16「平和と公正をすべての人に」	1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」
実施形式	対面	対面/複数回実施可	両方/複数回実施可	対面
代表者名	笹井 環	涌井 心	井上 拓海	皆川 陸

大学名	新潟県立大学			新潟大学
タイトル	その当たり前はみんな同じ？ ～アンコンシャス・バイアスから学ぶジェンダー問題～	海の向こうで起きてること	私たちの学校は当たり前？ —「『みんな』と分かり合える学校」を作るために—	みんなが安心できる避難所づくり ～多文化防災について考えよう～
要旨	アンコンシャス・バイアスに気づくことを目標として、ジェンダー問題について伝える。女性、男性それぞれの偏見や、LGBTQに関する問題点の理解、ダイバーシティゲームを通して共に考えていきたい。アンコンシャス・バイアスという潜在的に持っている考えを否定するのではなく、今後の在り方について向き合ってもらいたい。	現代において戦争は決して過去のものではなくなっている。戦争は、国際社会問題や経済面での被害を及ぼすだけではなく、個人のアイデンティティや文化の喪失ももたらしてしまう。 本ワークショップでは戦争が起きる理由、自分たちの生活は戦争とどう関係しているのかを考えてもらい、問題を自分事として捉えてもらうことを目標とする。	学校には様々なバックグラウンドや個性を持った生徒が集っており、多様な人間の集まる場になっている。しかし、それは社会的なマイノリティを包摂した多様なのだろうか。今日の公教育は互いのことをわかり合える場なのだろうか。教育、とりわけ学校にあらゆる人々を包摂するために何ができるのか、ワークショップを通じて生徒と考えていく。	日本は災害大国である。令和6年1月1日には能登半島地震が発生し、現在でも復興の取り組みが行われている。災害時のガイドラインの策定やその通知などの対応は進んでいるが、外国人への対応はまだ改善の余地がある。そこで、本ワークショップを通して世界の災害事情を踏まえつつ、避難所を利用する全員が安心できる避難所づくりや防災を実現するにはどうすればいいかを考えてもらう。
主な対象	-	中学生、高校生	中学生、高校生	-
関連SDGS	5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」	16「平和と公正をすべての人に」	4「質の高い教育をみんなに」、10「人や国の不平等をなくそう」	3「すべての人に健康と福祉を」、10「人や国の不平等をなくそう」、11「住み続けられるまちづくりを」
実施形式	対面	対面	対面/複数回実施可	対面/複数回実施可
代表者名	姉崎 華子	萩原 那々子・渡邊 華帆	福田 直央	武田 双葉

大学名	新潟大学	上越教育大学	
タイトル	フードダイバーシティってなに？ ～誰もが食べられる日本食について考える～	ちょっと気持ちのよい私たちの学校	「価値」ってなんだろう
要旨	宗教や地域、健康志向などの背景のもとさまざまな食文化がある。これらをフードダイバーシティ(食の多様性)と呼び、近年では訪日外国人を顧客とするフードツーリズム事業で注目されている。このフードダイバーシティをキーワードとして、異なる食文化を持つ人々同士が食卓を囲むためにどのような知恵が必要か考える。	身の回りにある「当たり前」を他の人にとっても当たり前のことなのかを疑い、もっと多くの人にとって気持ちのよい生活環境につながるように、少しの工夫でできることを見つける。また、環境面だけでなく心情的な面についても考える。	今年お札が変わります。これまで日本では何回紙幣が変わったか、また、世界では紙幣がどれくらい変わっているか知っていますか？お金のことを学びながら「もの」の価値について考え直してみよう。
主な対象	-	-	-
関連SDGS	2「飢餓をゼロに」、10「人や国の不平等をなくそう」、12「つくる責任 つかう責任」	3「すべての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」、5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、11「住み続けられるまちづくりを」	1「貧困をなくそう」、8「働きがいも経済成長も」、10「人や国の不平等をなくそう」、12「つくる責任つかう責任」
実施形式	対面/複数回実施可	対面/複数回実施可 ※要相談	対面
代表者名	五十嵐 柚月	森山 あゆみ	高山 史



←新潟国際情報大学国際交流ファシリテーター事務室ホームページ

事業の詳細や過去のワークショップタイトル等について、ご覧いただけます。※今年度の進行シートは、8月末頃に順次公開予定です。

新潟県国際交流協会ホームページ→

募集要領及び申込書等は、当協会ホームページのお知らせからもダウンロードいただけます。

